

ソーシャリー・エンゲイジド・アート ダイアログ・シリーズ

アーティストは自然・環境・気候危機といかに向き合っているか？

VOL.2

アート&ソサイエティ研究センターは2014年以降、社会的課題に取り組むソーシャリー・エンゲイジド・アートについての調査、研究、出版、展覧会や研究会の開催、アーティスト支援やプロジェクトの実践を継続しています。今回のダイアログ・シリーズでは、自然、環境、気象変動に関心をもつアーティストが、地球環境における危急の課題にいかに向き合い、自らの創作活動との関わりをどのように捉えているか、生の声で聞き、聴講者と共にディスカッションします。

「人類と地球、新しい生の形態について」

登壇者：宇多村英恵

開催日時：2021年11月18日[木] 19:00～20:30

定員：30名

参加費：無料

会場：ZOOMによるオンライン開催

申し込み・お問い合わせ：info@art-society.com

主催：特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター

協力：株式会社ブックエンド（環境総合誌 BIOCITY）

Socially Engaged Art Dialogue Series



宇多村英恵 | UTAMURA Hanae

1980年茨城県生まれ。2004年ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ大学ファインアート学科卒業。10年ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ大学院ファインアート学科修了。14年にシュトゥットガルトのレジデンス施設「Akademie Schloss Solitude」のフェローシップをうけ、渡独。滞在中に制作した「Across the Grid」を発表。ポーラ美術振興財団の助成を受け、ベルリンのレジデンス「クンストラーハウス・ベタニエン」で15年から16年にかけて滞在制作を行い、「Holiday at War 戦場と休日」を発表。2018年に資生堂ギャラリーの個展で資生堂アートエッグ賞を受賞。その後、2018年から2019年にかけて、文化庁新進芸術家支援制度により1年間ニューヨークで研修を行う。ニューヨーク大学の客員研究員を経て、現在はニューヨーク州ローチェスター大学で教鞭をとる。主な個展に「Holiday at War 戦場と休日」（資生堂ギャラリー、東京、2018）、現在 MOMA、また東京都現代美術館で回顧展が11月より予定されている久保田成子氏との二人展、'Resonances of DiStances / 共鳴する距離感'、(based on art gallery, デュッセルドルフ、ドイツ、2021)、グループ展に「ecofeminism(s)」(Thomas Erben Gallery、ニューヨーク、2020)、「Contretemps」(NYU Gallatin WetLab、ニューヨーク、2021)等。